

群 教 セ	G14 - 01
	平 17.230集

地域学習支援教材

「デジタル館林かるた」の作成

- 総合的な学習の時間における

児童の課題設定・課題追求への支援を目指して -

特別研修員 富岡 浩文（館林市立美園小学校）

（研究の概要）

本研究では、地域学習支援教材「デジタル館林かるた」を作成した。本教材は、館林市の小学校での地域学習の際に、いつでも誰でも利用できるよう、Web形式で作成した。ソフトの開発に当たっては、児童の追求活動への支援を目指し、参考文献やリンク、見学地や地域人材を紹介するページを作るなどの工夫をした。本教材を活用した結果、児童の興味・関心を高める、多様な課題解決の方法を促すなどの効果が明らかになった。

キーワード 【 総合的な学習の時間 - 小 地域教材 情報活用能力 個に応じた指導 】

主題設定の理由

本校では第5学年の総合的な学習の時間において、「地域の文化に対する理解を深めるために、文化財などの良さを複数の方法を用いて調べることを通してそれらの大切さに気づき、それらを保護するために必要な事は何か考えられる児童」の育成を目指し、館林の文化財を素材として学習を進めている。

従来の実践では、「館林かるた」（「潤いのある館林づくり」市民協議会郷土の部会）が昭和63年に作成）を導入資料として提示し、その中から児童に調べてみたい絵札を選ばせ、そこに描かれた文化財などについて、既知の事柄を基に、さらに知識を広げ深めさせようとしてきた。この活動を支援するため、教師は、参考文献などの資料収集、地域人材の確保、現地調査を行い、ワークシートの工夫も試みてきた。また、活動への意欲付けのために、追求した成果を市内外の人や相互交流都市である山形県天童市の児童に伝えることを目的とし、プレゼンテーションやビデオにより情報を発信する活動なども取り入れてきた。

しかし、課題設定の段階では、有名な文化財などにばかり人気が集まってしまい、選択する絵札に広がりが見られなかった。課題追求の段階では、複数の手段を用いて調べる、調べた事柄の中から必要な情報を選択するなどして、追求を深めるまでに至らなかった。特に人やものとかかわりなが

ら学習を進めることがあまりみられなかった。

これらの課題を踏まえ、5年生の総合的な学習の時間で目指す児童の育成のためには、児童が、「館林かるた」から得られる様々な情報を基に、いろいろな文化財などに対して興味・関心を持ち、自ら課題を設定し、追求を進めていくことを支援する教材が必要であると考えた。

そこで、地域学習支援教材「デジタル館林かるた」を作成することにより、児童が、まだ調べたことのない文化財などに対して興味・関心を持ち、積極的に人・ものとかかわりながら自分なりに追求方法を選択して必要な情報を収集できるよう支援をしていきたいと考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間における児童の課題設定・課題追求に役立つ、地域学習支援教材「デジタル館林かるた」を作成する。

研究の見通し

以下のような手だてにより、ねらいに合った地域学習支援教材が作成できるであろう。

課題設定の段階において、児童が、まだ調べたことのない文化財などに対して興味・関心をもつことができるよう、それらの紹介の工夫を工夫する。

課題追求の段階において、児童が、積極的に人・ものとかかわりながら、自分なりに追求方法を選択して、必要な情報を収集できるよう、情報提示の仕方を工夫する。

研究の内容

1 「デジタル館林かるた」の概要

(1) 基本的な考え方

本教材は、マウス操作だけで活用できるWeb形式で作成する。児童の課題設定・課題追求への支援を可能にするために、以下の点に配慮する。

ア 興味・関心を高めるために

絵札の文化財などの良さや調べる視点に気付かせる静止画を取り入れる。また、児童の興味・関心に合った絵札が探せる検索ページを作る。

イ 積極的に人やものとかかわった課題追求を進めるために

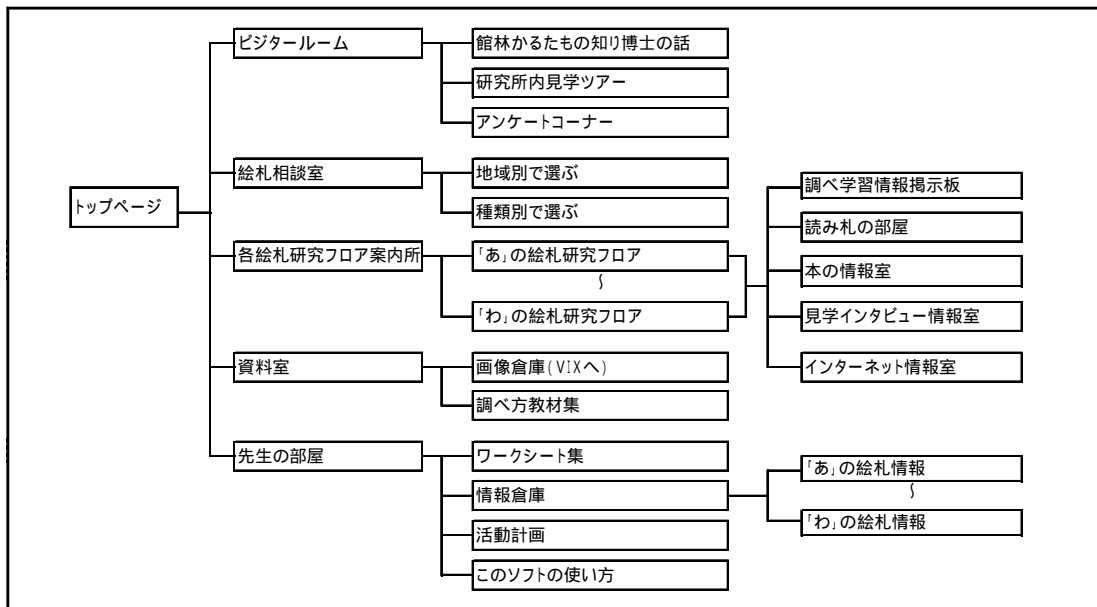
インタビューの相手や見学地を本やWebページなどから探し出せるよう情報を掲載する。

ウ 様々な追求手段を使った情報収集のために本、インターネット、見学、インタビューの四つの追求手段を使って、それぞれどんなことが調べられるかをまとめたページを作る。そのページでは、児童一人一人に必要な情報が提示できるよう情報の見せ方を工夫する。また、他の追求手段を使う必要性を児童が感じられるような情報を精選して掲載する。

(2) 「デジタル館林かるた」の構成

本教材は、図1のように、五つのコーナーからなる。画面は上下二段のフレーム表示となっており、上部には常にメニューが表示されるので、どのページからでも他のコーナーにリンクできるようにした。

図1 「デジタル館林かるた」の構成図



(3) 「デジタル館林かるた」の内容

ア ビジュアルーム

トップページにある「研究所」の看板をクリックすると、ビジュアルームにリンクする。ここからさらに以下の三つのページにリンクする。

ア) 研究所内見学ツアー

導入時に、本教材の各ページをどのように利用して課題設定や課題追求を進めていったら良いのか、活動の見通しがもてるように、各ページの画像と具体的な利用の仕方についてを載せた。

(イ) 「館林かるた」もの知り博士の話

導入時に「館林かるた」に対して興味・関心をもてるよう、作成した目的や方法、活用場面などを、Q & A形式で表示できるようにした。

(ウ) アンケートコーナー

課題設定の段階で、児童が自分に合った絵札を選択するのを支援するために、アンケートに答えることにより、その児童に合った絵札が表示されたり、「絵札相談室」「各絵札研究フロア案内所」にリンクできるようにした(図2)。

図2 「アンケートコーナー」の内容(一部抜粋)



イ 絵札相談室

課題設定の段階でいろいろな文化財などに興味をもてるように、地域別と種類別の検索コーナーを設けた。地域別は、絵札に描かれた文化財などの所在地やゆかりのある場所をもとに市内11学校区それぞれに分類した。種類別は、絵札の文化財などの属する種類で分類した(図3)。

図3 「絵札相談室」の種類別検索画面



ウ 各絵札研究フロア

フレーム上部のメニューの中から、「各絵札研究フロア案内所」をクリックすると、絵札の一覧が五十音順で表示される。そこから自分の選んだ絵札を見つけてクリックすると、以下の ~ のページへの選択画面が表示される。

(ア) 調べ学習情報掲示板

課題設定の段階で、児童がその絵札に対して興味や疑問を感じられるように、その絵札に関する写真などを載せた。また、関連する見学地などがどこの学校区にあるか、指定文化財かどうか、一言紹介(キャッチフレーズ)を載せた。

課題追求の段階で、児童がどの追求手段を選んだらいいの見通しがもてるように、選択した絵札に関して、情報収集の容易さを 印の数で表したり、コメントを載せたりした。

さらに、発展的な追求活動を進めるために、「広げる」の欄に、今調べている絵札と関連のある絵札や、関連があるが「館林かるた」に載っていない市内外のものを紹介した(図4)。

図4 「調べ学習情報掲示板」のページ



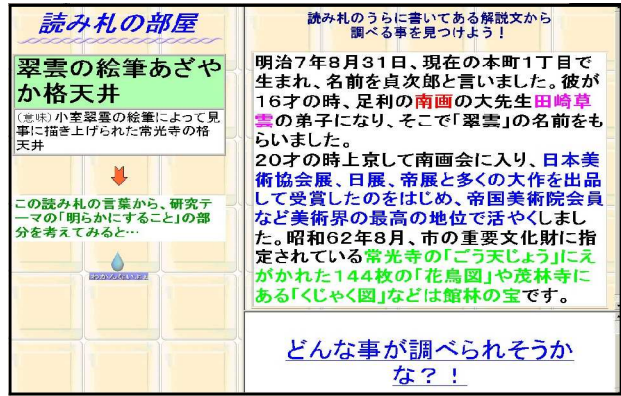
(イ) 読み札の部屋

課題設定の段階で、読み札を基に課題を設定できるように、読み札の意味の説明を載せ、リンクボタンをクリックすることにより、具体的な課題例が表示できるようにした。

また、その絵札についての解説文（「館林かるた」の読み札裏面に印刷されているものを児童用に修正したもの）の中で目を向けさせたい言葉に着色した。

さらに、「どんな事が調べられそうかな」の文字をクリックすると、読み札の解説文から具体的に何を調べたらよいか、表示されるページにリンクするようにした（図5）。

図5 「読み札の部屋」のページ



(ウ) インターネット情報室

課題追求の段階で、インターネットから効率的に情報収集ができるよう、より多くの情報の得られるものや、以後の調査対象・内容を示してくれるWebページへのリンクを載せた。

また、情報をうまく読み取れない児童を支援するために、そのWebページから得られる情報を見出しの形式で、必要なだけ表示できるようにした（図6）。

図6 「インターネット情報室」のページ

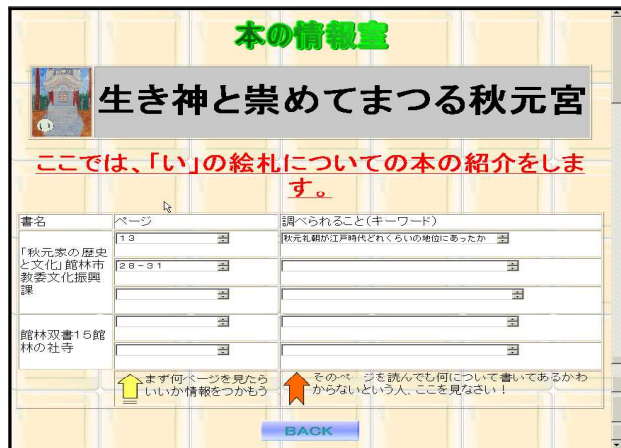


(I) 本の情報室

課題追求の段階で、郷土資料から必要な情報を収集できるように、その書名や関連情報のあるページとそこから得られる情報を見出しの形式で、必要なだけ表示できるようにした。

また、本の選定に当たっては、内容について不明な部分を質問しやすくするため、館林市教育委員会が発行している本を中心にした（図7）。

図7 「本の情報室」のページ



(オ) 見学インタビュー情報室

課題追求の段階で、調べたい事柄に合った見学地やインタビュー相手を探し出せるよう、情報源となるWebページや、ヒントを掲載した。

また、見学地については、自力で見学地まで行きたいと考える児童のために、「の近く」などのように目印になる場所を記し、その周辺の地図を載せた。なお、様々な事情に対応できるよう、必要に応じて、連絡先や見学できる時間を記した。

なお、インタビュー相手の選定に当たっては、市の文化財などの保護に対する考えや活動にも気付けさせるために、公共施設・団体の方を中心に載せた（図8）。

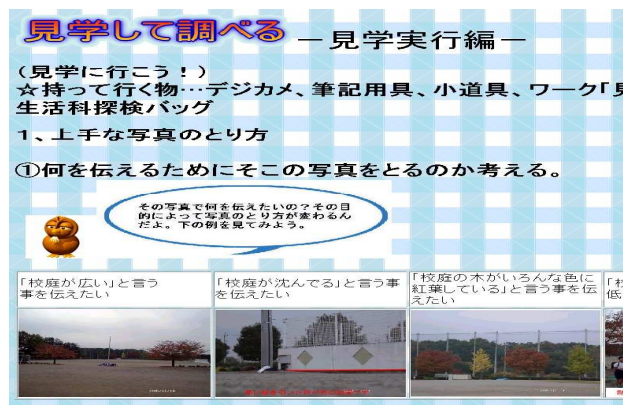
図8 「見学インタビュー情報室」のページ



エ 資料室

フレーム上部のメニューの中から、「資料室」をクリックすると、以下の、のページへの選択画面が表示される。

図9 「調べ方教材集」の教材「見学して調べる」



(ア) 画像倉庫

課題追求の段階で、諸事情により見学に行けない児童が静止画や動画を見ながら課題追求できるよう、画像集を設けた。「画像倉庫」の文字をクリックすると、画像閲覧ソフト「ViX」(K.OKADA氏作)が起動し、各絵札ごとに動画・静止画が表示される。

(イ) 調べ方教材集

課題追求の段階で、四つの追求手段を使った学習の仕方や注意点などを学習するために、マニュアルを載せた。「調べ方教材集」の文字をクリックすると、四つの追求手段の選択画面が現れ、学習したい内容のボタンをクリックすることにより、表示される(図9)。

2 「デジタル館林かるた」を活用した授業の経過(館林市立美園小学校5年)

学習活動	本教材を使用して行った指導の内容	児童の様子
<ul style="list-style-type: none"> 「館林かるた」の中から自分が調べてみたい文化財が描かれた絵札を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員に「絵札相談室」の種類別索引から絵札を選ばせた。選べない児童には、教師がその児童の興味のある事を聞き出しいくつか紹介し、それぞれの絵札の「調べ学習情報掲示板」を見させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が種類別索引から自分の興味のある種類を探し出し、そこで紹介されたそれぞれの絵札の「調べ学習情報掲示板」で、追求活動の難易度を見ながら、まだ調べた事のない絵札を選択した。
<ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだ絵札に関する情報を読み札などから調べ研究テーマを決める 自分の研究テーマをもとに具体的な追求課題を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読み札の部屋」の解説文と読み札の意味を見させ、要点や見所をつかませ明らかにしていきたいことを考えさせた。 「読み札の部屋」にある解説文の着色部分に着目させて、追求課題を立てさせた。 うまく追求課題を立てられない児童が多かったので、「読み札の部屋」の「何が調べられるかな」の活用を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読み札の部屋」にある解説文の着色された部分に着目し、自分の研究で明らかにしたいことをはっきりさせることができた。 「読み札の部屋」にある解説文を読み取ったり、「何が調べられるかな」を見たりして追求課題を立てることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットを使って調べる 	<ul style="list-style-type: none"> 「本の情報室」「インターネット情報室」両方を一通り見るよう促した。 目次の活用がまだ不慣れな児童にはページ情報を表示させた。 Webページは直リンクを避けてリンクさせてあるので、「インターネット情報室」のWebページ名の欄に書いてある情報をよく見るよう促した。 「調べ方教材集」にある「インターネットで調べよう」のページを使って、Webページの文章をひらがなに直す方法を教え、活用させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「本の情報室」を利用して、参考文献の目次がうまく使えない児童も必要な情報のあるページを探し出すことができた。 「本の情報室」の「調べられること」の欄を見た結果、参考文献の文章が難しくても、内容を読み取れた児童が多くなった。 「インターネット情報室」を利用して、インターネットを利用して、Webページから必要な情報のあるページを容易に探し出す事ができた。 Webページの文章をひらがなに変換しながら、分かったことをまとめることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 本やインターネットで調べて分かったことを確かめたり、分からないことを調べたりするために、見学・インタビューの計画を立て実行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見学地やインタビューの相手を「見学インタビュー情報室」のヒントを見ながら、クイズに答えるようにして探し当てた。その後、自分が得たい情報と照らし合わせて選ぶよう促した。 「見学インタビュー情報室」にある見学地へ行くための目印になる物・場所の情報を見させた。しかし、分からない児童の方がほとんどだったので、「地図表示」ボタンから地図を表示させ印刷させた。 「調べ方教材集」にある「見学して調べる」「インタビューで調べる」のページを使って、見学時の写真の撮り方やインタビューの仕方、電話の仕方を指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ絵札に関する企画展が行われていることに気付いたり、見学地への行き方のヒントから親戚の家の近くにあることに気付いたりして、意欲が高まった児童もいた。 見学地で必要に応じて写真の撮り方を工夫していた。

3 結果と考察

(1) 課題設定の段階において、児童は、まだ調べたことのない文化財などに対して興味・関心をもつことができたか。

課題設定後のアンケートから、表2のような結果が得られた。これは、「館林かるた」の各絵札が種類分けされ、調べやすさについての情報も提供されたので、容易に自分に合った絵札を選択できたからであろう。このことは表3の結果や、昨年度の五年生が選択した絵札の総数が8枚であったのに対して、今年度は22枚まで広がったことから本教材による支援が有効であったと考える。

表2 絵札の選択についての調査(85人回答)

調査項目	人数
・「自分にあった絵札を選べた」と答えた児童	64
・「全く知らない絵札を選んだ」と答えた児童	51
・「すぐにでも調べたい」と答えた児童	72

表3 児童が選択した絵札と選択理由

絵札	選択理由
「す」 (小室翠雲)	私は絵が好きだから絵を描く人のことを調べたいと思った。
「き」 (近藤沼)	近藤沼は行ったこと無いけど、つりが好きだから。
「い」 (秋元宮)	館林の有名な人を調べたかったから。近くにあるから。

(2) 課題追求の段階において、積極的に人・ものとかかわりながら、自分なりに追求方法を選択して必要な情報を収集できたか。

表4のように、多くの児童が自分にとって必要な情報が手に入ってから、さらに情報収集を行うことができた。また、同じことを調べても情報源によって答えが微妙に、時には大きく違うことに気付いた児童もいた。これは、同じ調査事項を複数の情報源から調べられるよう、あちこちの「情報室」に情報を載せたためであろう。

また、見学地に本教材で探した地図を持って休日に出かける児童や、市役所などの公共機関やお寺にインタビューに行く児童も見られた。これは、本教材の見学地の見どころや地図を見て、興味を持ち、地図により行き方が分かったためであろう。また、インタビューについては相手が市職員または、お寺の住職のため安心感が生じたためであろう(表5)。

表4 課題追求の仕方に関する調査(28人回答)

質問	「はい」と答えた人数
必要な情報が手に入っても他の方法でも調べてみましたか。	22名
2つ以上の方法を使うと少しずつでも違った情報が出てくる事に気づけましたか。	25名(うち3名は友だちの調べているのを見ていて気付いた)

表5 見学・インタビュー実施班数(9班中)

	実施班数	場所・相手
見学	6班	常光寺、土橋門、つつじが岡公園など
インタビュー	4班	住職、つつじ研究所所員、文化振興課

研究のまとめと今後の課題

本教材を活用した結果、児童にとって未知な文化財などにも興味・関心をもたせ、調べてみたいという意欲をもたせることができた。また、自分なりに追求手段を選び、情報を収集しようとする態度をもたせることもできた。さらに、積極的に見学・インタビューに行こうと計画を立てる児童の姿が多く見られた。以上のことから本教材は、課題設定・課題追求の段階における児童の活動を支援するために有効であることが分かった。

今後は、本教材の有効性を高めるために、他学年でも活用できるよう情報量を増やしたい。以上の点を課題とし、今後も児童が「館林かるた」を使って、館林の文化や歴史、人物について調べたい教材になるよう内容を充実させていきたいと考えている。

参考文献

- ・有田和正著「総合的学習に必須の学習技能」明治図書(2000)
- ・「館林双書」全巻 館林市教育委員会(1970)
- ・「まんが館林の歴史」館林市教育委員会(1994)
- ・「館林市の文化財」館林市教育委員会(1997)

制作協力

- ・館林市教育委員会文化振興課

(担当指導主事 平形 隆正)